

令和5年6月8日

お知らせ

課名	保健医療課ワクチン対策室
担当	景山・山崎
内線	3342・3346
直通	086-226-7805

乳幼児新型コロナワクチン接種後副反応調査の 最終報告を発表します

県では、乳幼児（生後6か月～4歳）への新型コロナワクチンの接種に係る副反応について、県民へ正確な情報提供を行うため、岡山大学と共同で調査を実施し、その中間報告として本年2月6日に発表しましたが、最終報告がまとまりましたので、発表します。

記

1 調査名

乳幼児新型コロナワクチン接種後副反応調査

2 調査目的

乳幼児用新型コロナワクチン接種後の副反応の頻度を評価し、県民へ正確な情報提供を行う。

3 調査対象

県内の協力医療機関で、乳幼児用新型コロナワクチンを接種した乳幼児（生後6か月～4歳）

4 調査・解析機関（委託先）

岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 疫学・衛生学分野

5 調査方法、項目、結果等

別添のとおり

6 その他

- 最終報告は県ホームページにも掲載します。

<https://www.pref.okayama.jp/page/797562.html>

- 調査結果に関するお問い合わせは、次の問い合わせ先へお願いします。

<問い合わせ先>

岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 疫学・衛生学分野

TEL：086-235-7173

乳幼児新型コロナワクチン 接種後副反応調査

最終報告

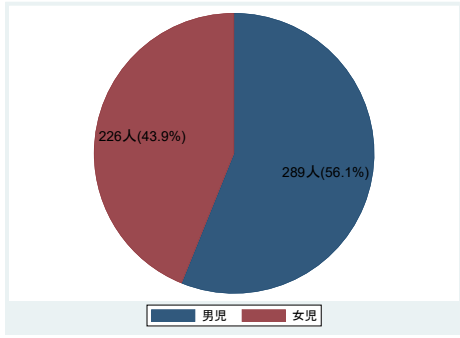
2022年11月10日～2023年5月2日調査回答分
岡山大学 疫学・衛生学分野

乳幼児新型コロナワクチン接種後副反応調査

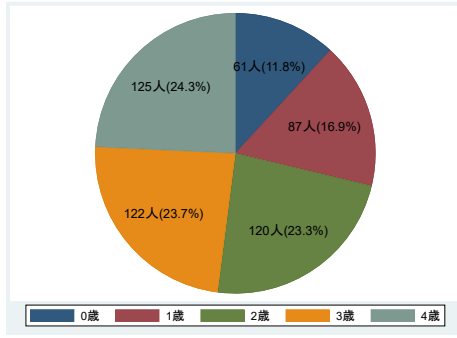
目的	ファイザー社製乳幼児用新型コロナワクチン接種後の副反応の頻度を評価し、県民へ正確な情報提供を行う
対象	岡山県内の協力医療機関で、生後6か月～4歳対象のファイザー社製乳幼児用新型コロナワクチンを接種し、接種後副反応調査に回答した529名のうち、明らかに他の感染症の疑いがあった14名を除いた515名（内訳 1回目接種261名、2回目接種168名、3回目接種86名）
調査実施方法	Google Formによる回答
解析	-記述分析 -岡山大学大学院医歯薬学総合研究科疫学・衛生学分野にて解析実施
実施主体	岡山県

被接種者の特性 (有効回答総数515名)

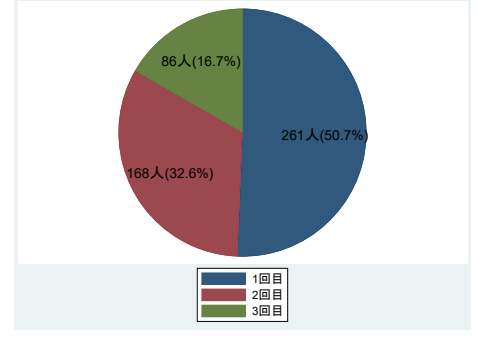
男女



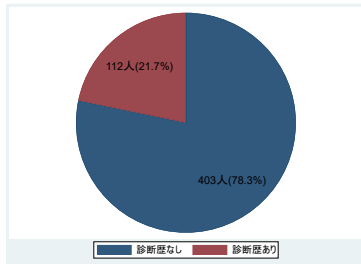
年齢分布



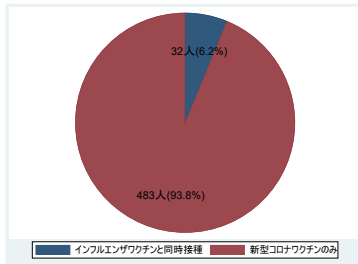
接種回数



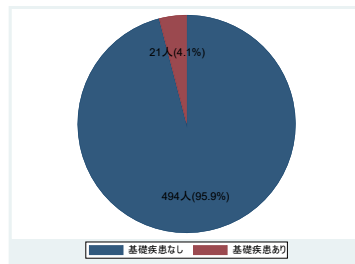
COVID-19診断歴



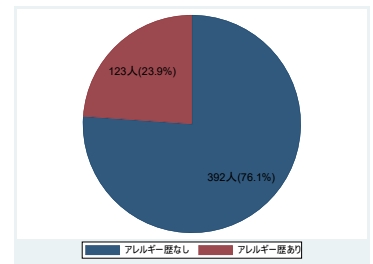
同時接種の有無



基礎疾患



アレルギー歴



* 観察期間中にコロナ陽性となった5名、特定の感染症(突発性発疹、RSウイルス、ノロウイルス)と診断された3名、接種3日目以降に初めて熱発した5名、観察期間中に明らかな感冒症状を伴う発熱があった1名は、他の感染症による症状と考え、解析から除外した

* 本調査における基礎疾患は、日本小児科学会の『新型コロナウイルスワクチン接種にあたり考慮すべき小児の基礎疾患等』を独自に定義した

接種回数別 被接種者の特性

	1回目接種 n=261		2回目接種 n=168		3回目接種 n=86	
	人	(%)	人	(%)	人	(%)
性別						
男児	144	(55.2)	99	(58.9)	46	(53.5)
女児	117	(44.8)	69	(41.1)	40	(46.5)
年齢						
0歳	28	(10.7)	21	(12.5)	12	(13.9)
1歳	43	(13.5)	29	(17.3)	15	(17.4)
2歳	59	(22.6)	41	(24.4)	20	(23.3)
3歳	65	(24.9)	38	(22.6)	19	(22.1)
4歳	66	(25.3)	39	(23.2)	20	(23.3)
基礎疾患						
基礎疾患あり	11	(4.2)	5	(3.0)	5	(5.8)
基礎疾患なし	250	(95.8)	163	(97.0)	81	(94.2)
アレルギー歴						
アレルギー歴あり	55	(21.1)	43	(25.6)	25	(29.1)
アレルギー歴なし	206	(78.9)	125	(74.4)	61	(70.9)
COVID-19診断歴						
診断歴あり	57	(21.8)	36	(21.4)	19	(22.1)
診断歴なし	204	(78.2)	132	(78.6)	67	(77.9)
インフルエンザワクチン同時接種						
同時接種あり	25	(9.6)	7	(4.2)	0	(0.0)
単独接種	236	(90.4)	161	(95.8)	86	(100.0)

接種回数別 副反応出現割合 (515名)

	乳幼児1回目 n=261		成人1回目 (参考値(%))	乳幼児2回目 n=168		成人2回目 (参考値(%))	乳幼児3回目 n=86		成人3回目 (参考値(%))
	人	(%)	(参考値(%))	人	(%)	(参考値(%))	人	(%)	(参考値(%))
局所反応									
痛み	48	(18.4)	(88.2)	35	(20.8)	(85.9)	9	(10.5)	(91.3)
腫脹	23	(8.8)	(28.0)	15	(8.9)	(29.3)	4	(4.7)	(41.6)
発赤	22	(8.4)	(10.8)	12	(7.1)	(17.7)	3	(3.5)	(24.1)
全身反応									
37.5度以上の発熱	13	(5.0)	(2.7)	8	(4.8)	(37.5)	6	(7.0)	(38.0)
37.5~38.0	8	(3.1)		4	(2.4)		4	(4.7)	
38.0~39.0	5	(1.9)		4	(2.4)		2	(2.3)	
39.0~	0	(0.0)		0	(0.0)		0	(0.0)	
副反応に対する対応									
解熱鎮痛剤使用	13	(5.0)	(20.9)	4	(2.4)	(61.1)	4	(4.7)	(68.3)
病院受診	2	(0.8)		1	(0.6)		2	(2.3)	

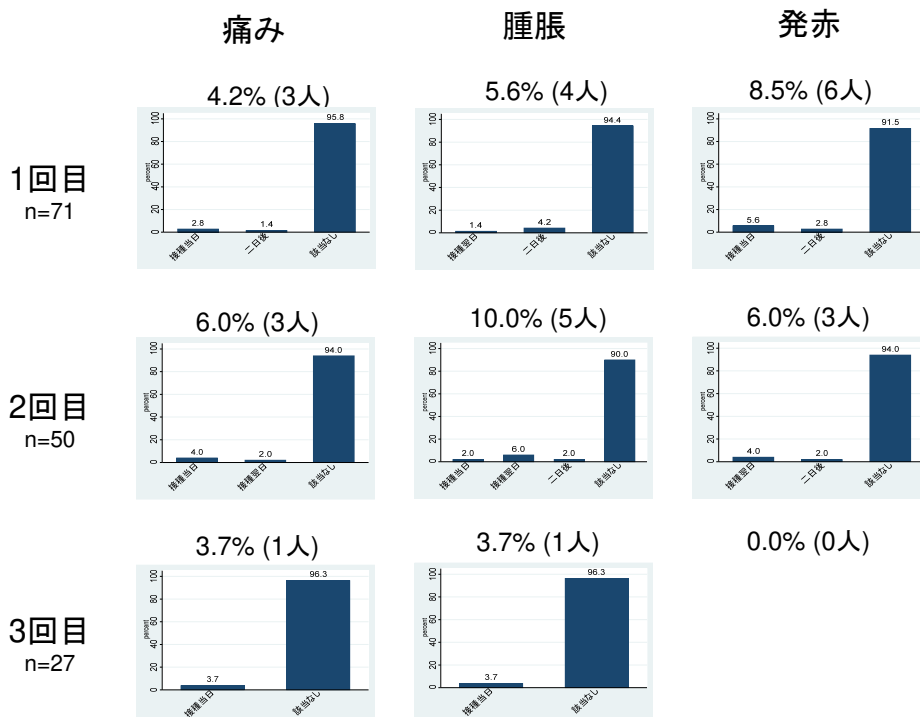
成人と比較して副反応の出現割合は低かった

注). 成人データは、岡山県内の医療従事者を対象としたファイザー社製ワクチン初回(1回目、2回目)接種後調査(令和3年7月)及び3回目接種後調査(令和4年2月)より抜粋

1回目接種時0~1歳
(n=148)

接種回数別 接種後日数別副反応(局所反応)

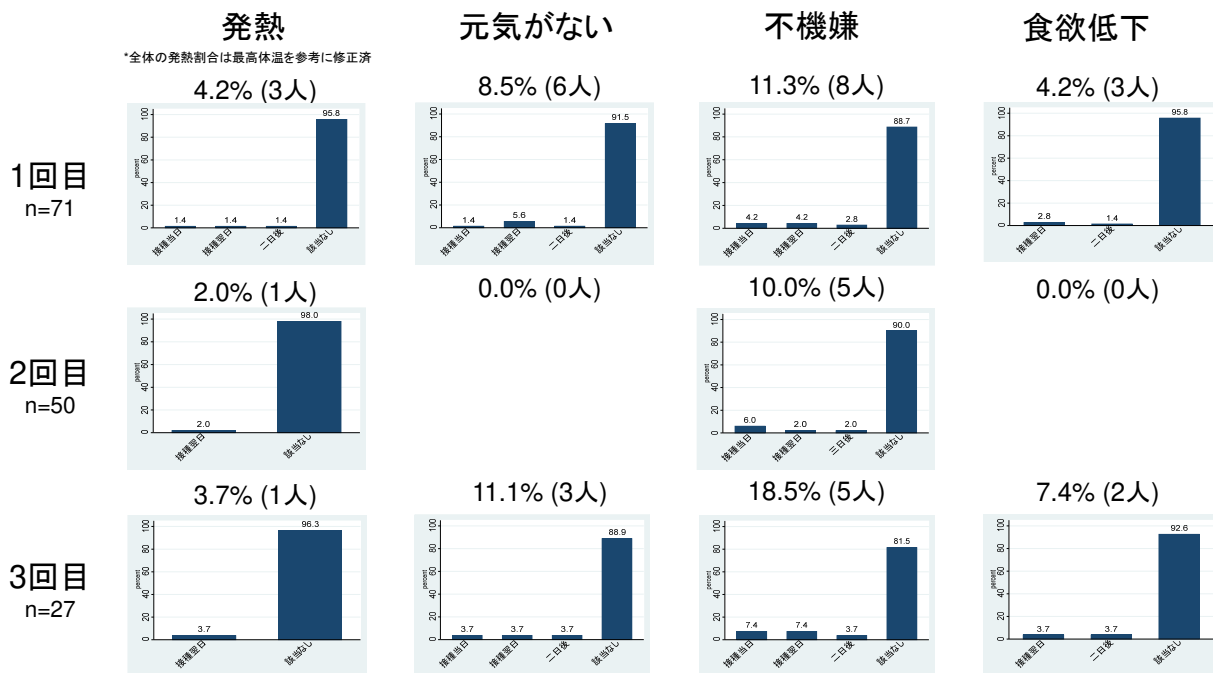
注). 棒グラフは各反応の最終観察日を示す
尚、該当者なしの項目は図を省略した



1回目接種時0~1歳
(n=148)

接種回数別 接種後日数別副反応(全身反応)

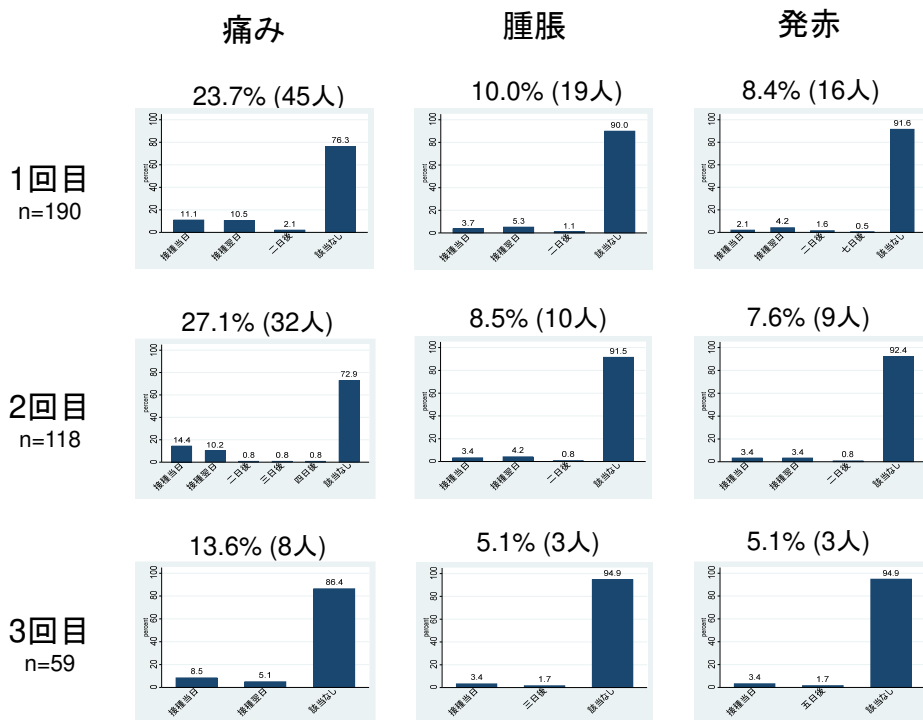
注). 棒グラフは各反応の最終観察日を示す
尚、該当者なしの項目はグラフを省略した



1回目接種時2~4歳
(n=367)

接種回数別 接種後日数別副反応(局所反応)

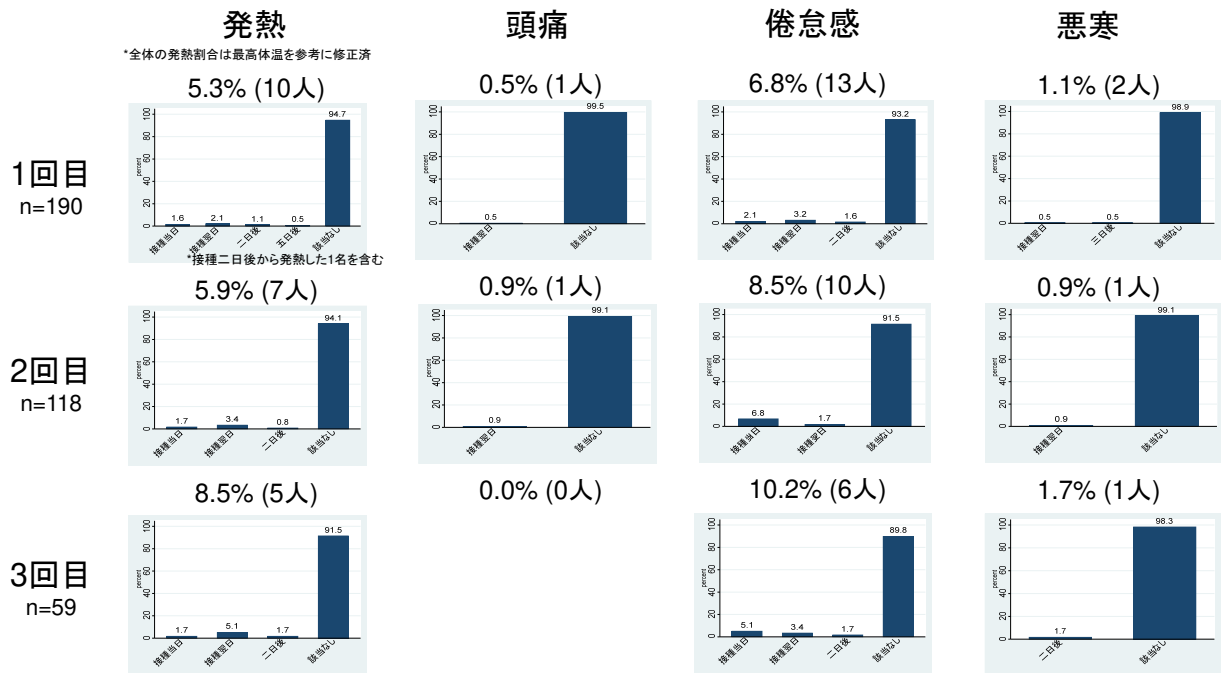
注). 棒グラフは各反応の最終観察日を示す
尚、該当者なしの項目はグラフを省略した



1回目接種時2~4歳
(n=367)

接種回数別 接種後日数別副反応(全身反応)

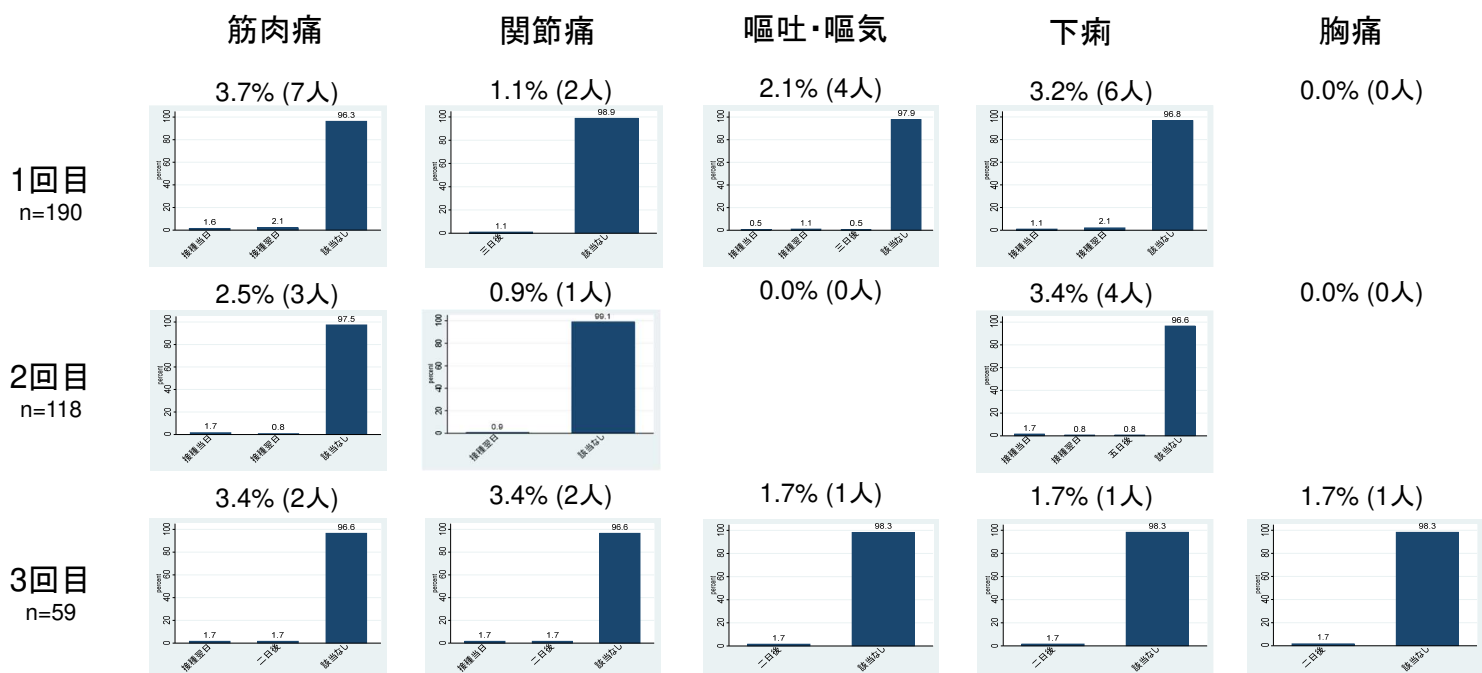
注). 棒グラフは各反応の最終観察日を示す
尚、該当者なしの項目はグラフを省略した



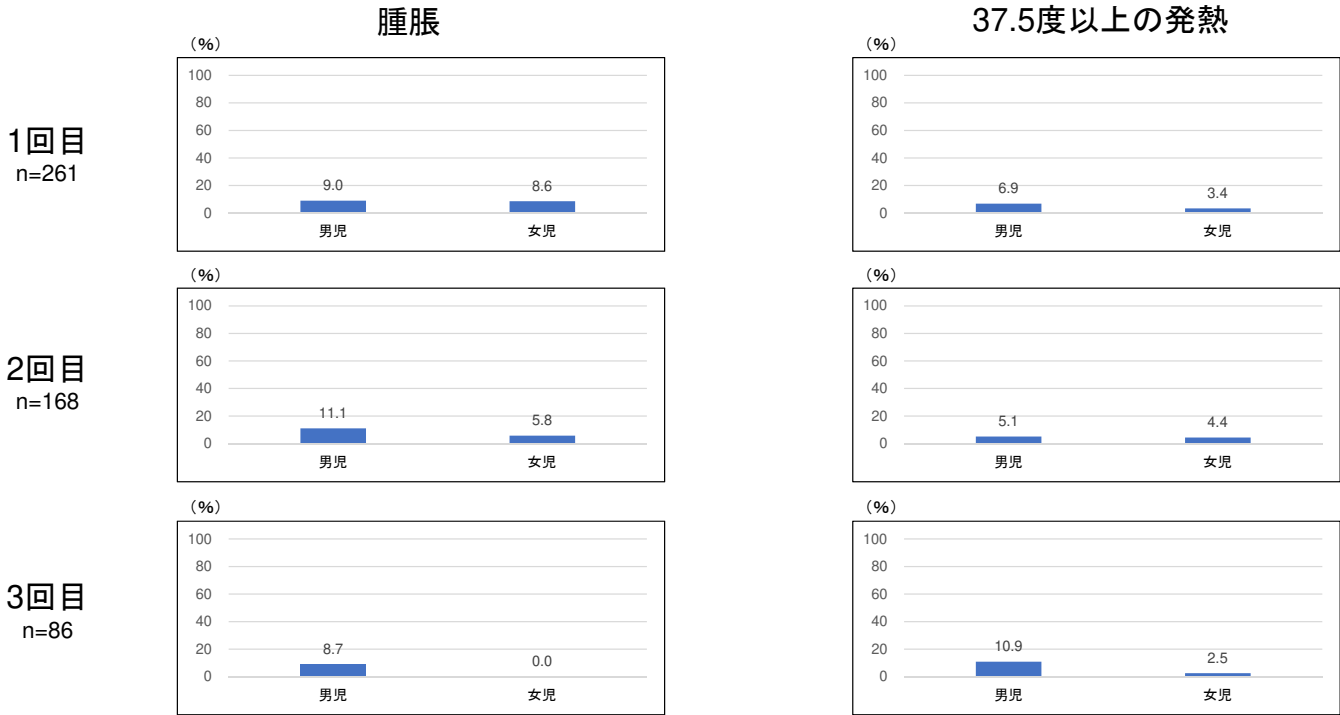
1回目接種時2~4歳
(n=367)

接種回数別 接種後日数別副反応(全身反応)

注). 棒グラフは各反応の最終観察日を示す
尚、該当者なしの項目はグラフを省略した

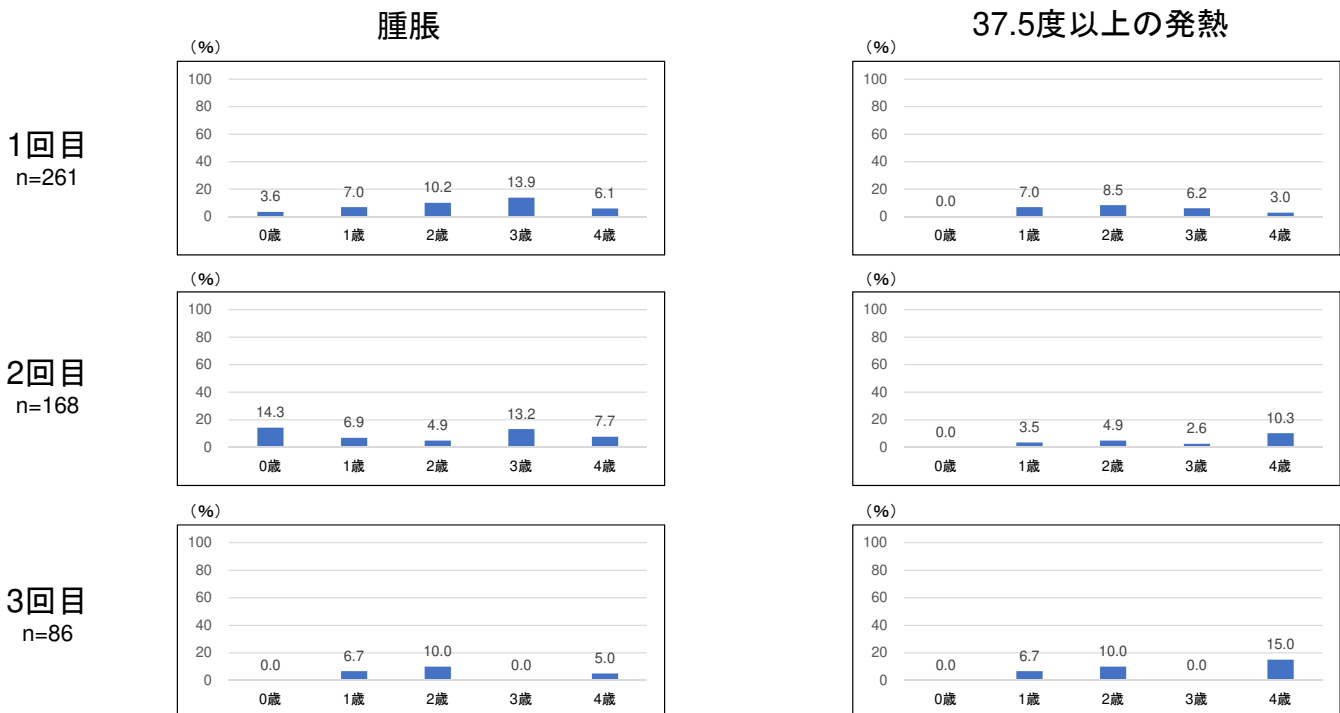


接種回数別 性別副反応 (男女比較)



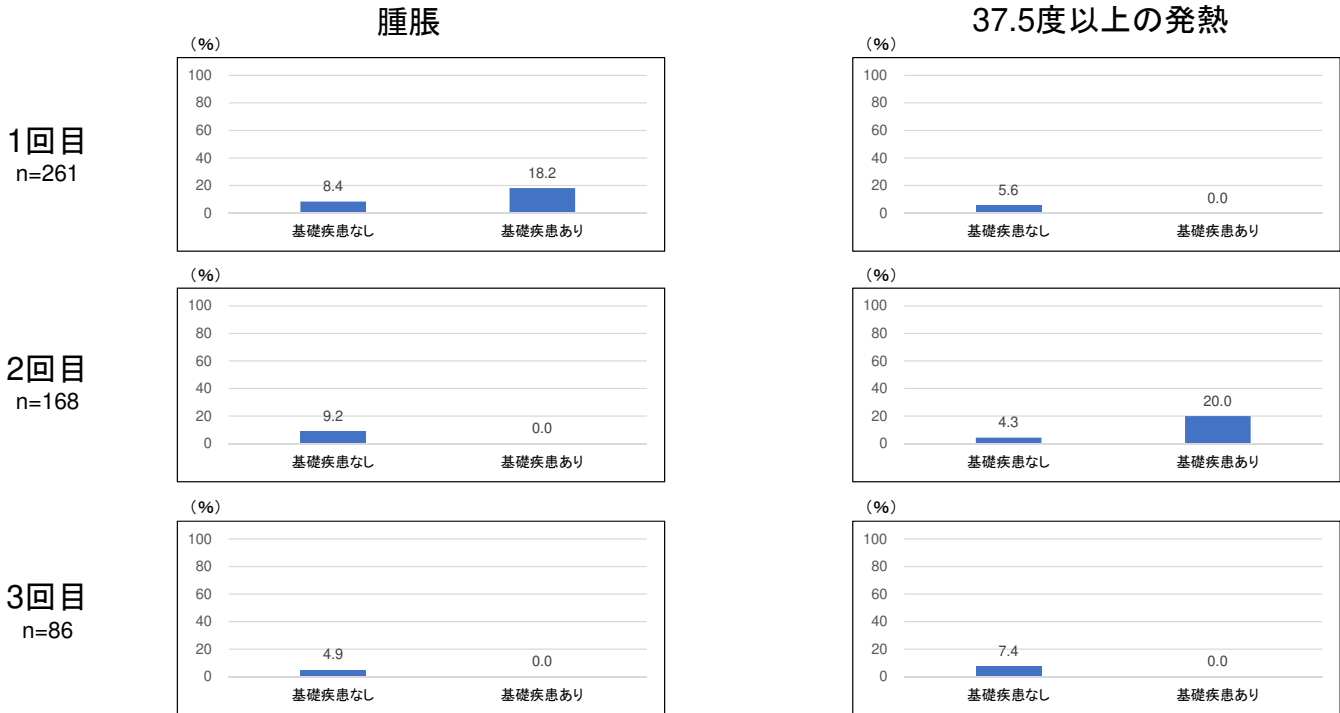
男女の差は統計学的に有意ではなかった

接種回数別 年代別副反応



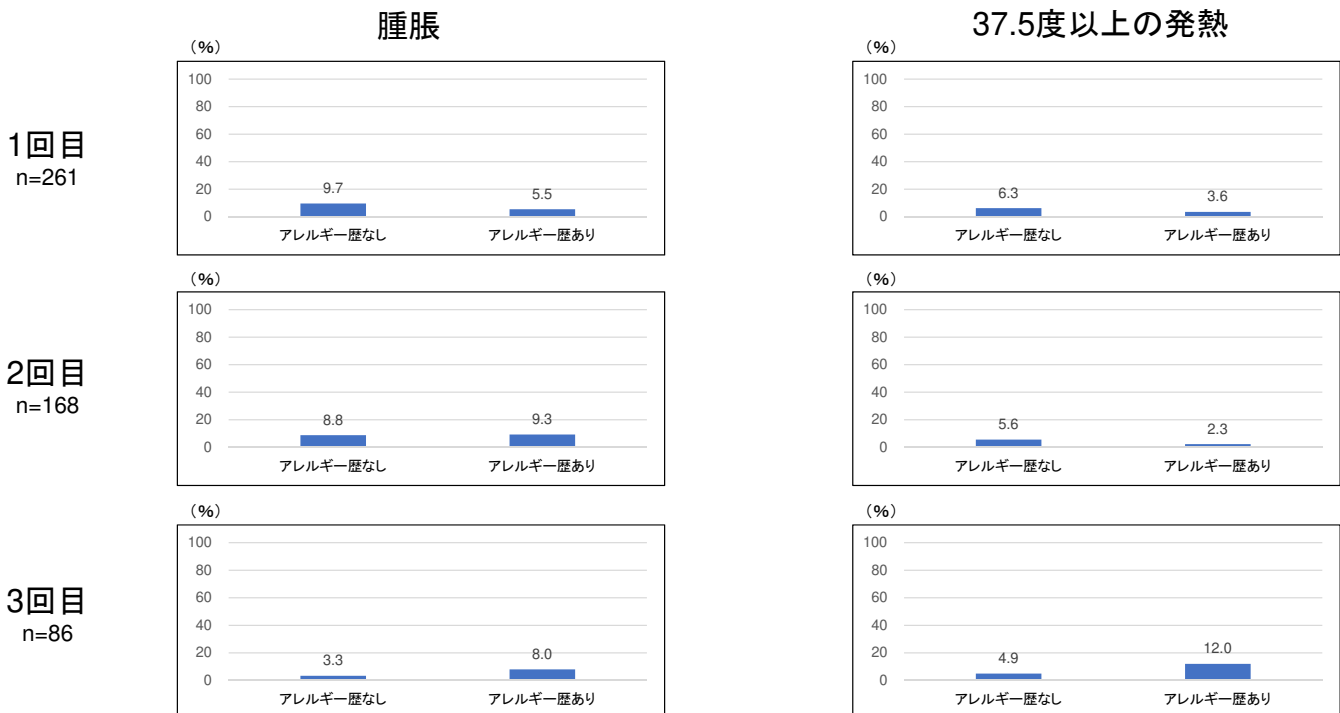
年代別の差は統計学的に有意ではなかった

接種回数別 基礎疾患別副反応



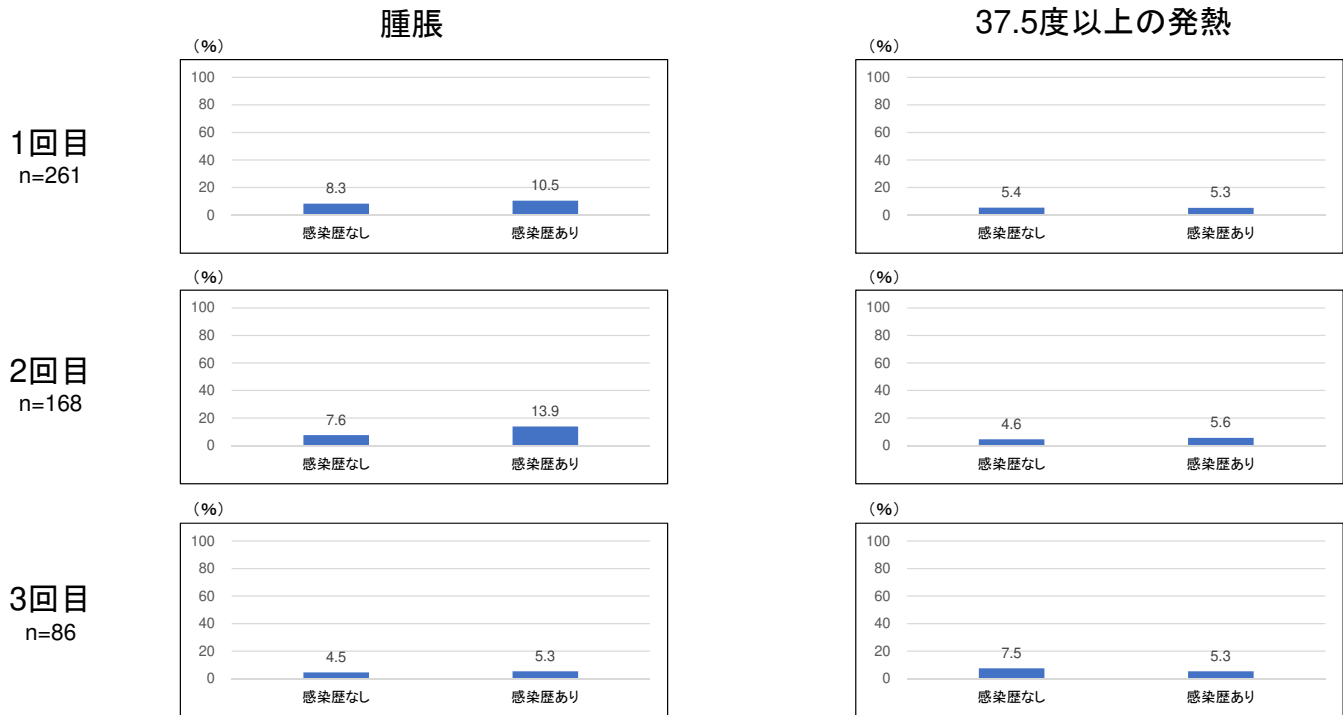
基礎疾患の有無による差は統計学的に有意ではなかった

接種回数別 アレルギー歴別副反応



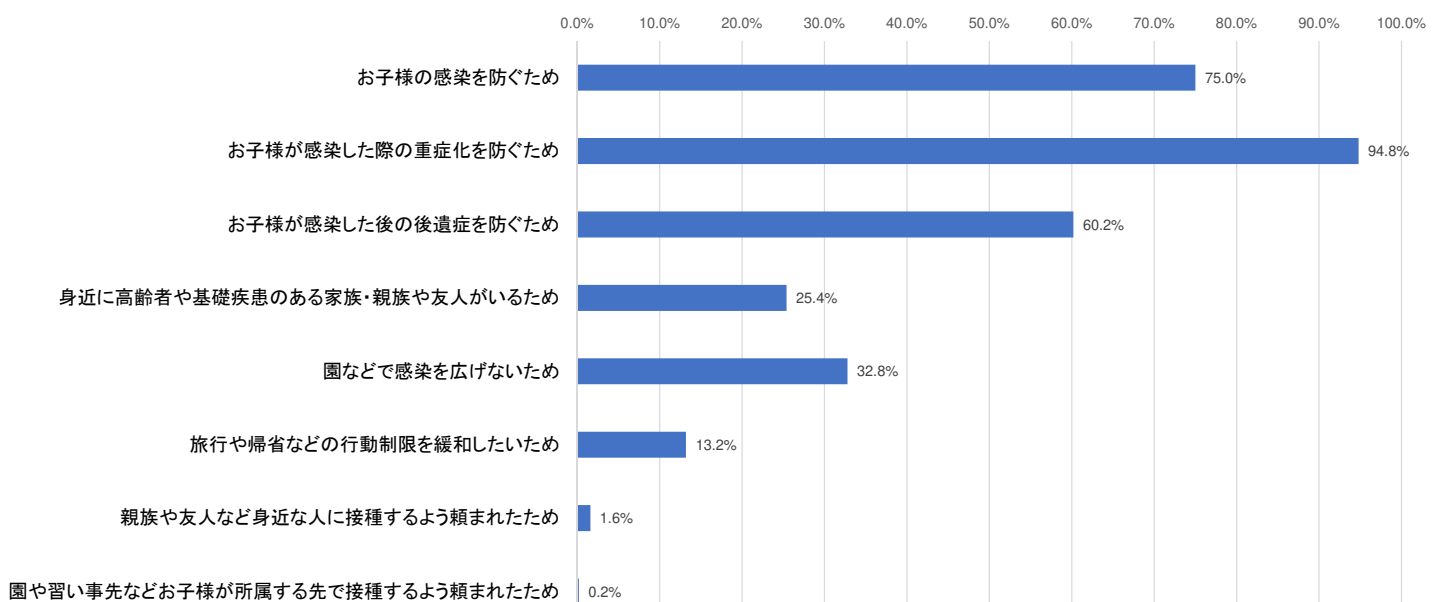
アレルギー歴の有無による差は統計学的に有意ではなかった

接種回数別 COVID-19感染歴別副反応



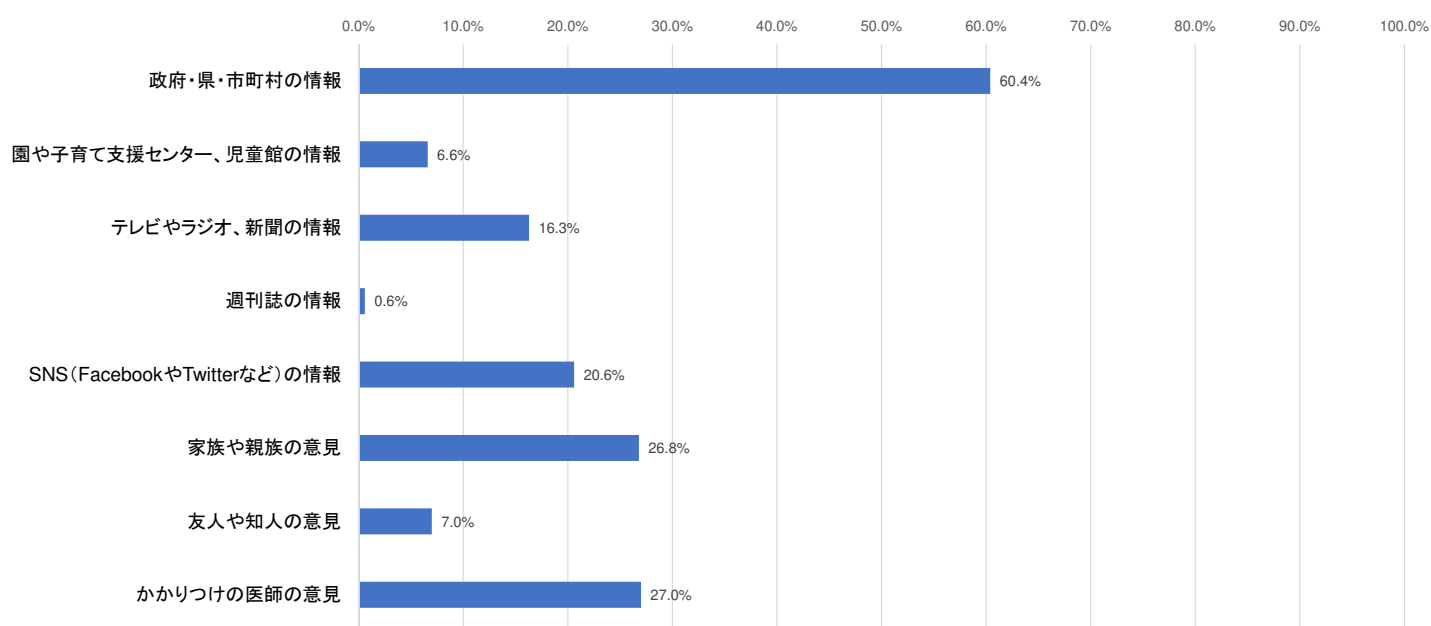
COVID-19感染歴の有無による差は統計学的に有意ではなかった

接種を受けることを決めた理由 (複数回答可)



接種を受けることを決めた理由として、子どもの感染・重症化・後遺症を防ぐ、園や学校で感染を広げないためなどを挙げた回答者が多かった。また、かかりつけ医師のすすめとの回答も複数あった。

接種を受けることを決めた情報元 (複数回答可)



接種を受けることを決めた情報元として、政府・県・市町村など公的な情報の割合が高かった。またかかりつけの医師、家族、SNSの情報も重視されていた。また、日本小児科学会の推奨との回答も複数あった。

乳幼児新型コロナワクチン接種後副反応調査最終報告まとめ

- 岡山県内の協力医療機関で、生後6か月~4歳対象のファイザー社製乳幼児用新型コロナワクチンを接種し、接種後副反応調査に回答した529名のうち、明らかに他の感染症の疑いがあった14名を除いた515名のデータを解析した。調査協力医療機関における接種者総数に対する回収割合は33%となった。
- 局所反応については、1回目、2回目、3回目ともに成人と比較して、副反応の出現割合は低かった。
- 発熱の出現割合について成人と比較すると、1回目は高く、2回目、3回目は大幅に低くなっている。これに関し、乳幼児には日頃から発熱しやすい特性があり、本調査においても感冒など副反応以外の発熱が含まれると考えられるが、成人や小児接種で報告されたほどの、1回目から2回目、3回目にかけての大きな発熱割合の上昇は認められず、乳幼児では副反応による発熱の頻度は低いと解釈している。
- 症状がある場合でもほとんどは接種翌日までに治まり、接種3日目以降まで持続するケースは少なかった。
- 性別、年齢、基礎疾患、アレルギー歴、COVID-19感染歴の有無により、接種部位の腫脹と37.5度以上の発熱の出現頻度は統計学的に有意な差がなかった。
- 接種理由として大多数が、お子様自身の感染や重症化を予防するためと回答した。

ご協力いただいた皆様、誠にありがとうございました